

## 平成29年度 第2回松戸市病院事業経営計画推進懇話会議事録（抄）

- 開催日時 平成30年2月9日（金）13時30分
  - 会場 市立総合医療センター 2階 大会議室
  - 出席委員 5名（正木座長・和座委員・星野委員・坂本委員・文入委員）
  - 欠席委員 1名（大塚委員）
  - 病院事業 山浦病院事業管理者
- 【市立総合医療センター】  
烏谷病院長、木村副院長、石原副院長、尾形副院長、宮本副院長兼看護局長、  
時永診療局長、漆畑救命救急センター長代理、五月女がん診療対策室長、  
飯田中央手術室運営委員会委員長
- 【東松戸病院】  
岩井病院長、田尻副院長兼看護局長
- 【管理局】  
加藤管理局長、岡村審議監、林経営企画課長、片桐管理局総務課長  
池田管理局管財課長、飯尾管理局医事課長、増田管理局地域連携課長  
大塚新病院開設課長、渡邊東松戸病院総務課長
- 【建設事務局】 渋谷建設事務局長、伊藤審議監、渡部次長
- 【オブザーバー】 小嶋地域医療課長、小薬顧問、大西顧問、関口顧問

### ●会議内容

1. 開会 ー松戸市病院事業管理者ー
2. 出欠報告
3. 確認事項  
※傍聴の承認（傍聴者3名）
4. 懇談事項  
経営計画（第2次）平成29年度の進捗状況について

#### ①市立総合医療センター

平成29年度よりスタートした経営計画（第2次）について、各施策の進捗状況を報告。特に、経営指標と関連性が高い施策の項目を中心に説明。数値目標については、11月末時点において、病床稼働率、新規入院患者数、入院一日平均患者数、手術件数、救急患者数（3次）等が前年同期を上回って推移。その他、施策の進捗状況、11月末時点の業績等について説明。

#### 【質疑応答】

委員：小児科病棟について、新病院でNICUは12床とのことだが、一般的に、出生数1万の規模に対して必要なNICUの病床数は25床と言われている。東葛北部保健医療圏の出生数約1万件程度に対して、NICUは総合医療センターに12床しかなく、大変な状況と推察するが、実情はどうか。

病院事業：現在、NICUはほぼ満床状態となっており、母体搬送の受け入れが困難な状況も出ている。東葛南部にはNICUを持つ病院が複数あり、東葛北部にも、当院以外にNICUを持つ病院があるのが望ましいと思う。

委員：県に意見を述べる機会があれば、こちらからも要望したいと思う。

委員：ドクターカーの出動回数について、目標の100回に対して既に3倍以上の実績があるが、患者の重症度はどの程度か。

- 病院事業：平成29年7月から救急車型ドクターカーの運用を開始したことにより、月の出動回数が大幅に増加した。今年度は2月1日現在で389件出動しており、内訳は死亡39件、重篤59件、重症57件、中等症88件、軽症44件、その他102件となっている。
- 病院事業：以前は心肺停止のケースでのみ出動していたが、救急車型ドクターカーは設備も充実しており、心肺停止だけでなく意識障害、脳卒中、心筋梗塞等の症例でも出動している。
- 委員：ドクターカーの利用については、安易に出動を求めることを防ぐため、市民の教育という面も重要だと感じるが。
- 病院事業：ドクターカーの出動は患者本人が呼ぶのではなく、救急隊の出動要請に基づく。限られた医療資源を最大限に活用するために市民の教育が重要という点は、全くその通りだと思う。
- 座長：ドクターカーの出動回数が300件というのは突出している。現場の医師の疲労が懸念されるが、その点はどうか。
- 病院事業：昨年7月から、運用の変更もあり、出動回数が増えている。大変だが、より多くの患者の治療を行えていると思うので、頑張っていきたい。
- 委員：市立病院通信（現「医療連携News」）の見直しについて、その周知はどのように行っているのか。
- 病院事業：市立病院通信は医療機関向けの広報誌として月に一度発行している。記事の内容についても見直しを行い、子どもの手術の特集や、当院で開催したがんシンポジウムなど、地域の医療機関の先生方に興味を持って頂けるようにしている。
- 委員：医療安全の推進について、死亡事例チェックリスト報告303件とあるが、医療安全調査機構にはどのような報告を行っているのか。
- 病院事業：今年度4月から11月の総件数が303件であり、その全件について内容を確認している。適宜必要に応じて検討会も開催しているが、予期し得なかった死亡事例はなかった。その旨を調査機構に報告している。
- 委員：看護師の確保については順調に進んでいるか。
- 病院事業：今年の4月に51名採用予定となっている。また、退職者が例年40名前後いるが、今年度は例年より少なくなる見込みである。
- 委員：医師の働き方改革について、国も積極的に推進しているところであるが、医師の負担が軽くなることでストレスが軽減され、結果として患者に対しても良い影響を与えるという好循環が生まれる。是非、検討を進めて欲しい。  
医療安全については、全死亡事例に対してスクリーニングを行うことで、傾向を把握し、事故を未然に防ぐことができる。是非、続けて頂きたい。
- 委員：研修医について、初期研修医は比較的応募が多く、高い評価を得ているようだが、その要因は何と考えるか。後期研修医について、残る人が多くないという話も聞くが、そのあたりはどうか。また、先程の働き方改革とも関係するが、研修医を指導する一方で、過度な負担もかけられず、指導医の先生はジレンマで苦勞されていると察するが、実情はどうか。
- 病院事業：初期研修医が多いのは、新病院効果に加えて、当院の小児科が自治体病院の中では全国的にも有名であることが要因だと思う。後期研修医については、より魅力的な研修内容にしていかなければならない。地元に戻ってしまう研修医も多く、定着してもらうのはなかなか難しい。働き方については、当直回数を増やして欲しいと言われる程、やる気のある研修医が多く、ジレンマに苦勞しているということはない。
- 委員：医師の確保について記載があるが、具体的にどのような方法を採用しているのか。
- 病院事業：喫緊の課題は麻酔科医の確保。以前は大学の教授の意向が強かったが、現在は研修医本人の意向が強く影響する。様々な要素を考慮して、確保に努めている。
- 委員：医療講演会の市民の反応や、アンケート結果はどのような内容か。一般の市民は、医療に関する知識が必ずしも豊富でない。受け手側の反応も考慮して情報提供して欲しい。

病院事業：病院をより身近に感じてもらうため、本市町会・自治会連合会の全面的な協力の下、市内15地区のうち12地区で脳卒中、がん手術、新病院の概要等についての医療講演会を行い、毎回80名～100名程度の市民の方にご出席頂いた。アンケートの中には厳しい意見もあったが、概ね好評であった。医療講演会、及びパートナー講座については、来年度も継続予定。

委員：他の医療機関と合同で講演会等を開催することも手段の一つ。

委員：新病院では患者向けの図書室などはあるのか。

病院事業：患者用の図書室は設置していない。広報の強化の一環として、患者向けの読み物等も検討していきたい。

委員：紹介した患者の情報を、早めにフィードバックしてもらえると有難い。返戻がないと、どのような治療を受けたのかわからなくなってしまう。

委員：問診票の標準化とあるが、聞きたいことを聞けない患者もいるので、患者の意見を聞くような欄があると良い。

座長：様々な目標値を掲げているが、例えばDPC等、他院と比較できる数値目標も今後掲げてはどうか。救急患者数のうち、入院に繋がった割合なども重要。

## ②東松戸病院・梨香苑

平成29年度よりスタートした経営計画（第2次）について、各施策の進捗状況を報告。数値目標については、東松戸病院は病床稼働率、入院一日平均患者数、外来診療単価等が前年同期を上回って推移。梨香苑は、通所一日平均利用者数は前年同期を上回っているものの、入所一日平均利用者数は前年同期を下回って推移している。その他、施策の進捗状況、11月末時点の業績等について説明。

### 【質疑応答】

委員：職員給与費比率について、前回の懇話会では100%前後の数字だったと記憶している。今回は70%台にまで落ちているが、どのような理由からか。

病院事業：11月末時点の数値を記載しているので、賞与等含まれていないものがある。決算になると、やはり90%後半になると見込まれる。

委員：今後、回復期病床はますます重要になってくるが、人件費比率が余りに高い。病院運営審議会が発足し、議論されているようだが、東松戸病院のあり方について、慎重に、かつ前向きに考えて頂きたい。

委員：人間ドックについて、女性技師の採用を考える理由は。

病院事業：マンモグラフィーの検査など、女性の患者さんがより安心して検査を受けるためには、女性技師が必要と考えており、その確保が課題となっている。人事交流なども要望しているが、総合医療センターも人的余裕がなく、難しい状況。

座長：人間ドックや脳ドック等、予防医療に本格的に取り組む体制はできているのか。

病院事業：人間的なこともあり、必ずしも十分な体制になっているとは言い難い面もある。

座長：本格的に取り組むべきかどうかを議論すべき。

委員：人件費についてはどのように考えているか。

病院事業：経営形態の見直しも検討していく必要があると考えている。

委員：職員が一生懸命努力しているのは承知しているが、市民の税金が投入されていることを考えて欲しい。経営形態については、審議会と市の双方が考えていく必要がある。

病院事業：給与形態については、現在見直す状況になっていない。審議会の方向性や市の考えを考慮しながら、東松戸病院のあり方について検討を進めていきたい。

座長：回復期は非常に重要になってきている。総合医療センター、東松戸病院、梨香苑の3つが今まで以上に連携を強化して、経営改善に繋げて欲しい。

委員：東松戸病院は、病床稼働率は90%を超えているにも関わらず、赤字になっている。どこに力を入れるのか、絞り込むことも必要になってくる。

一方、例えばワークライフバランスについては、会議で報告形式の研修をしている

ようだが、様々な取組みについて、アンケートを取るなど、職員から改善のアイデアを提案してもらい、一緒に取り組んでいくというような事も検討しては。

病院事業：提案を出す場としては、毎週月曜日のMCMや、各委員会等があり、そこを活用している。また、先日の病院機能評価において、準備を進める過程で職員から様々な提案があったので、今後に繋げていきたい。

委員：高齢化が進む中で、急性期と慢性期、介護と医療が連携していかなければならない。急性期病院だけで独立して存続できるわけではない。

病院事業：先日、富岡市に視察に行き、感銘を受けたのは、一般病床334床の公立富岡総合病院と、169床の公立七日市病院の2病院は、2つで1つの500床の病院だと先方の院長や職員が述べていた点。人事交流もあり、診療等のデータも共有できるとのことであった。地域性の違いはあるが、非常に重要なことだと感じた。

委員：梨香苑では、研究事例発表大会で最優秀賞を獲得したとある。市民にとってこういった受賞のトピックは非常に励みになる。今後も市民への情報発信を続けて欲しい。

### 《座長より①、②の総括》

- ・前年同期と比較して改善が見られる。目標達成のための努力を今後も続けて欲しい。
- ・一方で、医師の労働環境、残業問題などにも注意が必要。
- ・コンプライアンスについては、研修を行う等、議論を進めたほうが良い。
- ・来年度には診療報酬改定があるが、機能分化が進む中、総合医療センターと東松戸病院が協力して対応していく必要がある。
- ・市立の病院であることを忘れず、患者の声を一番大切にしたい。

## 5. 報告事項

### ①その他

新病院開院後の状況について報告。

- ・救急外来は、旧病院と比較して1.5倍ほど患者が増えている。より多くの患者を受け入れるため、病床管理機能を強化していく。
- ・外来待ちの患者に対しては、ストレスを軽減できるよう、ホスピタルストリートを広く開放的に設けている。
- ・新病院では、事務の効率化、人的コストの削減を図るため、複数の診療科をまとめて1つの窓口を設けている。
- ・成人病棟はアメニティをより充実させ、面積も十分に確保している。現在はほぼ満床状態。
- ・外来患者が保険のことや栄養のことなど幅広く相談できるように、相談支援センターを設け、相談室も個室を整備した。

## 6. 閉会 —松戸市病院事業管理者—